

新研究テーマの紹介

流出解析モデル利活用マニュアル改訂に関する共同研究

研究第二部 研究員
遠藤 圭吾



1 研究の背景

近年、1時間当たり100mmを超える局地的集中豪雨（いわゆるゲリラ豪雨）が各地で観測され、浸水被害が頻発しています。本機構が発行した流出解析モデル利活用マニュアル（以下、「本書」という。）は、浸水対策等において雨水流出解析技術を活用する際に参考となる重要なマニュアルであり、毎年多数の団体にご活用いただいています。

前回の本書の改訂から7年が経過しており、各団体に流出解析モデルの導入が進む中で、詳細モデルによる管網を活用したものだけでなく、簡易モデルによる地表面の雨水流出解析が行われるなど、様々なシミュレーションが実施されています。このような中で、団体ごとの流出解析モデルの構築状況、下水道事業計画の策定・推進の方針に即した検討が行えるように、本書の記載事項のさらなる深化を望む声があがっています。そのため、2017年以降の新たな情報等を反映し、シミュレーションによって下水道事業を推進する際に、全国の団体にご活用いただけるマニュアルへと改訂します。

2 研究の目的

前回の改訂年（2017年）以降の新しい情報をマニュアルに反映し、全国の団体の近年のニーズ（シミュレ

ーション関連の記載の充実、歩掛に関する記載の充実等）に合わせたマニュアルへと改訂することを目的としています。

3 研究体制

3.1 研究体制

（株）NJS、オリジナル設計（株）、（株）極東技工コンサルタント、（株）三水コンサルタント、（株）東京設計事務所、中日本建設コンサルタント（株）、（株）日水コン、（株）日本インシーク、日本工営（株）、日本水工設計（株）、（株）ニュージェック、（株）パスコ、（公財）日本下水道新技術機構

3.2 研究期間

令和6年10月1日～令和8年3月31日

4 研究内容

「簡易モデルの使用、更新、詳細モデルへのバージョンアップ等に関する記載内容の改訂」、「計画降雨浸水防止区域図等の作成時に参考となる歩掛内容の精査および改訂」、「その他検討項目に関する記載の改訂（新たな計測技術、準用河川や一般水路のモデル化等）」の改訂内容について研究を実施します。